

俺ニ出シテ突レ先月ノ皆勤手古ヲヤラナカウツモガアルカヲト言フテ五  
四ヲ取ツタガ誰レニ此ヒタク知ラナイ僕モ休ニテ金ヲ貰フタカラ早速  
島箱ヲ青木ニ贈ツタ大正五年五月六日附岡谷出長尾宛手紙  
ニ依テ同年七月道浦氏飯岡ノ際ニケ月ニ至ルモ十日分ヲ出勤トレ前  
述ノ如キ理由ノ下ニ五月ヲ強請セリ  
(前送眞漢弄氏実見レ尚道浦ノ告白ニ依ル)  
同年十一月同レク三班新美ハ公林ヲ交代シテ飯岡セルニ其ノ理由ヲ申出テ  
リレラ猶モ社長ヲ酒肴料ヲ些クナカウツ実アリ果レテ會計ノ方  
ニ返金レアルカ  
三班官邸五月二日入社ノ翌月其母来リ井橋氏ニ向ツテ謂一年ヲ贈ツタ  
リ退取販賣部長坂部氏息死去ノ時奈送部員ニ何寺計ル知ナク独断ニテ即  
ニ南二日ノ餘祓アリシニ奈送部員ニ何寺計ル知ナク独断ニテ即  
時花塚ヲ呈シ然ル後ソノ代全部ヲ井橋青木屋野ヲ存テ奈送部  
員一同ニテ支出ス可ク強要シテ知レトモ至時幹部ヲ除ク他ハ餘  
祓ナクソノ支出ヲ月末ニテ猶モ三セウレントテ願出テタルモ餘祓ナキ  
テハ如何トモ難ク而モ存耶世耶ニ奈送部員ニ去ラレタリ  
吾ハ疑ハレ  
即ケニ殿ノ給リニ於テ夕刊第一版不足セルトキニ場ノ方ニ申出ル時ノ結  
果ヲ俾レ第ニ殿ヲ待テ其ノ不点ノ地方ニ奈送部員ニテ居ル事ヲ毎夜ノ如ク  
ナリシノ結果ハ記事ノ重罰ハ必スアル井橋氏ハ此レヲ知ラシテモ知閑セス  
ト言フルカ奈送部員ノ実際上ノ社事ニ於テ井橋知レル如クトシテナレ  
係長ノ權威絶テニナレトテモ過ミマズ奈送部員係長ハ地方殿ニ自  
寫岸ヲ大ケサニ使用スル七時間ノ餘祓アル實年島存物ノ如キ百枚ヲ  
ラカノ紙モ自寫岸ヲ以テレシテ終自寫岸ニテナレニ十枚タラノ内

一、  
三、三班三部制施行

發者及警視テ地方ニテ判所ノ總本ヲワザリ毎勤手ヲ以テ配達シテ  
各ルニ拘ラス京政成沙番ニハ如何ニ時調迫リ居ル上モ有勤手ヲ使用  
スル事ヲ許サズ律ニテ河合ハ其ノ事ヲ判悉シテカラ井橋係長ハ其レ  
ハハ編輯ノ罪ニ違フテ外ニテヨクモ家談シテ居ル由編輯ヲ  
局長ニ之ヲ為ル時調迫リテトラウツテ河合ハ其ノ時ハ來用事ヲ使用セ  
ヨト述言シ現ニ京政成ニ回送使用セル事実アルニ拘ハラス十九版  
ヲ二十五分取リ歸社カ廻リ初ニ時口完全ニ揃ヒ得テ又三版ニテ  
首ヲ上ル由一表首ニテ或ハ其母道ニテ再ヒ入社セタル其又今  
日ノ號子ニ於テモ律ニテ係長ハ其レニテノ權威ヲ存セズ編輯ニ責任  
ヲ負担シ或ハ其母道ヲ謝罪スルノ説キナカク表面ニ於テハ青木ニ  
新製建社セシム言フル如キ係長ノ青木ニ對スル態度實ニ怪異  
其何事ノ理由ヒソメルモアラサルヲ疑フカサレラ得ナイニ其母  
木ニ不係長ニ彈リナカラ三班律或ハ奈送部員今中ノ業ニ事ニ  
阿波ニテモ其母道トシテ律ニ色ヲ船ノ無クテテレレ或ハ其母道  
欠勤數日ニ至ルニテ幾回トナケルモ其母道トシテレレ或ハ其母道  
病ニテ欠勤ニテサレテ道ニ首ニスル等所請進從者ニハ係長ニテ其  
レモ腹心ヲ培養スル等其ノ不公ナル態度アリテ其母道ノ係長ニ  
此ヲ思フ能ハサル如クナリ其他自勤手ノ收購事實等長等ニ違フ  
以上ノ不正事實及非在行為及羨慕ノ一端ヲ漏去シ不信在ノ理由  
トレ折々前二者ノ首ヲ要求スル